

千葉土建市原支部のSDGs

すべてのステークホルダーのニーズを捉え、千葉土建ならではの強みを活かしたクオリティの高い持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みを推進し、労働組合として働く条件ののみならず働く人にとってよりよい社会づくりに貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



※千葉土建市原支部では「SDGs検定」を取得しましたので上記のロゴも活用していきます。


取り組みの方向性

下記の7つについて持続可能な取り組みとし推進していきます。

- 働く人に正当な報酬と働きやすい環境を
- 不平などをなくし、誰もが健康的に安全に
- 防災・減災、リフォーム促進で3R
- 伝統的な技能の継承、誰もが学べる機会を
- 平和で誰をも受け入れる社会へ
- 住み続けられるまちづくりへ
- ゴミの削減に着手し、環境に配慮した製品の積極的に利用

<p>①働く人に正当な報酬と働きやすい環境を</p> 	<p>自治体発注の工事において労働者の賃金や報酬の最低額を定める公契約条例は、25自治体（都内では11自治体、県内では野田市、我孫子市の2市）で制定されています。その制定過程のみならず、制定後にはその実効性を高める活動においても積極的な役割を果たしていきます。この条例の推進は、働く人に正当な報酬を保証するだけでなく、賃金アップから税収アップ、そして自治体サービスの向上など、地域経済の好循環を促進する意味でもSDGsの理念にかなうものです。また、建設技能者の能力や経験年数に応じて評価されることを目的とした建設キャリアアップシステム（CCUS）を推進し、労働組合として作業従事者の安全・環境の改善に取り組む中で、働き甲斐のある人間らしい仕事（ディーゼントワーク）を推進します。</p>
<p>②不平などをなくし、誰もが健康的に、安全に</p> 	<p>建設産業で働く仲間が安心して医療にかかる「中央建設国民健康保険」は、かつての「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設業界の不平等な待遇を、声を上げて国に求めて創設させたものです。男女問わず誰もが健康的に暮らせる、真の社会保障の実現をめざして、地域諸団体と連携しながら幅広く行動していきます。またコロナ禍においては公的医療の重要性が浮き彫りになりました。国民の健康、命に対する国と自治体の責任強化を求める運動に取り組み「多くの感染症を根絶し、新たな感染症を防止しよう」というターゲットにもアプローチします。そして「富の再配分」に逆行する逆進性の高い消費税ではなく、応能負担、累進課税を求める中で、税の不平等解消にむけても取り組みを進めています。</p>

<p>③防災・減災、リフォーム促進で3R</p>	
   	<p>近年急増している豪雨被害などの被害軽減へ、市原市との災害時協定の終結など、防災・減災活動や被災地復興支援に取り組んでいます。また、地域とつながる身近な住宅の専門家集団として「地元の仕事は地元へ」を増改築協議会やすまいる・ちば等の組織と共に呼びかけています。幅広く地域循環型経済が促進されれば、移動に伴うCO2の抑制効果も期待できます。また国交省も推し進める良質なストック住宅活用にむけて取り組んでいるリフォームパートナー協議会「RECACO」を通じて、地域住民が安心してリフォームを依頼できる体制を整え、健全な住宅リフォーム市場の活性化に貢献し、「廃棄物の発生を3R（Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル))で大幅に減らそう」のターゲットにアプローチします。</p>
<p>④伝統的な技能の継承、誰もが学べる機会を</p>	
  	<p>技術研修センターなど職人が働きながら学べる場を提供し、建設技術技能の向上と後継者の育成、生涯学習の機会促進につとめています。千葉県最大の建設労働組合である千葉土建が携わる中で、安価で質の高い教育を実現しています。森林大国である日本の国土が育んだ木造建築は、その特有なぬくもりとともに、持続可能な地球環境に貢献する観点からも注目されています。建築物における木造化や木造利用促進が、健全な森の維持に繋がります。千葉土建では、その担い手となる木造建築の建築スペシャリストを育成することで、陸の豊かさを守ります。</p>
<p>⑤平和で誰をも受け入れる社会へ</p>	
 	<p>戦前、「戦争遂行上の適正配置」のためと称して労務報告会がつくられ、多くの建設労働者が前線に送られました。そして、砲台や作戦上必要な施設建設に従事させられる中、その多くが犠牲となりました。建設産業は平和であってこそ「社会的有用産業」として発展することができます。千葉土建では地域諸団体と共に平和・公正社会・民主主義を守る活動を積極的に行う中で「すべての人が法によって平等にまもられる社会に」「正しく機能し、正しい情報を発信する公共機関へ」等SDGsの掲げるターゲットにもアプローチします。仕事とくらしの土台となる大切な運動として、日本国憲法をまもる運動、原水爆禁止を求める運動にも取り組みながら、平和でだれをも受け入れる社会を推進します。</p>
<p>⑥住み続けられるまちづくりへ</p>	
   	<p>カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現にむけて、波及効果の大きい住宅、インフラなど、建設産業における取り組みがこれからますます重要になってきます。実際に住宅や都市を作り上げ、生活に不可欠なインフラを整備するには、現場で汗を流す現場従事者です。衣食住の住を担う建設産業の仲間の助け合いでエッセンシャルワーカーとして最前線で働く労働者の仕事とくらしを支え合うことで、誰もが住み続けられる街づくりに貢献していきます。また、こどもみらい住宅支援金事業などを普及できるよう啓蒙し、組合員を通して一般消費者（市民）に提案することで、一定の性能を有する住宅の取得を促し、エネルギーの効率化を計る取り組みを推進します。</p>

⑦ごみの削減に着手し、環境に配慮した製品を積極的に利用	
	<p>会議の資料などペーパーレス化できるものから順に進めていき、利用する紙についてもFSC森林認証の得たものを活用するなど、ごみの削減に着手します。また海洋プラスチックを減らすため、マイボトルの持参を推奨し、工作教室などでマイバックを地域の子供たちにプレゼントしたり、マイストローを組合員向けに配布するなど、水質汚染の発生を抑制するきっかけを仲間や地域に呼びかけていきます。</p>

労働組合としての社会的な役割を發揮しながら、働く条件のみならず、働く人が暮らす社会、世界がよりよくなるように。千葉土建市原支部は、市内で働く仲間の声を大切に、様々な人たちと幅広い活動に取り組みながら魅力ある建設産業、働きやすく暮らしやすい社会を目指しています。